

平成 29 年度東京都環境局「家庭系食品ロス発生要因等調査」

消費者アンケート調査結果

食品ロス削減の新たな取組を推進するため、食品ロスの発生要因の把握と削減方策の検討に資する情報収集を行うことを目的に、東京都内在住者に対してインターネット調査を実施し、家庭内及び外食時に発生する食品ロスについて状況を把握した。調査概要及び調査対象の構成は以下のとおりである。

本調査においては、家庭内での食品ロスについての設問が多いことから、事前に実施したインターネット調査での回答より、自身の家庭で「主に調理する」と回答した者をやや多く選定した。家庭で調理していない回答者に対しては、家庭での状況をできるだけ家族にも聞いて回答するよう依頼した。

表 0-1 調査概要

調査期間：2018年2月9日～2月13日
調査方法：インターネット調査
回収数：1299人
調査対象：東京都内在住者（23区内在住者：925人、多摩地域在住者：374人）
調査受託者：株式会社三菱総合研究所 環境・エネルギー事業本部

表 0-2 調査対象の構成

世帯人数	家族特性	人数	調理する	調理しない
1人	18歳～34歳	70	70	0
1人	35歳～49歳	70	70	0
1人	50歳～64歳	70	70	0
1人	65歳以上	65	65	0
2人	本人、配偶者ともにフルタイム	110	62	48
2人	フルタイム＋短時間勤務	110	76	34
2人	フルタイム＋無職	110	60	50
2人	高齢者夫婦（2人とも無職）※少なくともどちらか一方が高齢者	100	52	48
3人以上	本人、配偶者ともにフルタイム、高齢者なし、子ども1人以上（未就学児含む）	100	70	30
3人以上	本人、配偶者ともにフルタイム、高齢者なし、子ども1人以上（未就学児含まない）	101	47	54
3人以上	フルタイム＋短時間勤務、高齢者なし、子ども1人以上（未就学児含む）	89	61	28
3人以上	フルタイム＋短時間勤務、高齢者なし、子ども1人以上（未就学児含まない）	101	45	56
3人以上	フルタイム＋無職、高齢者なし、子ども1人以上（未就学児含む）	102	71	31
3人以上	フルタイム＋無職、高齢者なし、子ども1人以上（未就学児含まない）	101	58	43
総計		1299	877	422

1 購買行動

(1) 中食（惣菜・お弁当）の利用状況

家で食事をする際の食材ごとの使用頻度については、加工されていない野菜、肉、魚を週5日以上調理するとの回答が最も多く、4割以上であった。次いで、買って来たシリアルやパンを食べる頻度が多かった。一方、カット済み野菜や調理キットの使用頻度は少なく、全く使わないとの回答は3割以上であった。

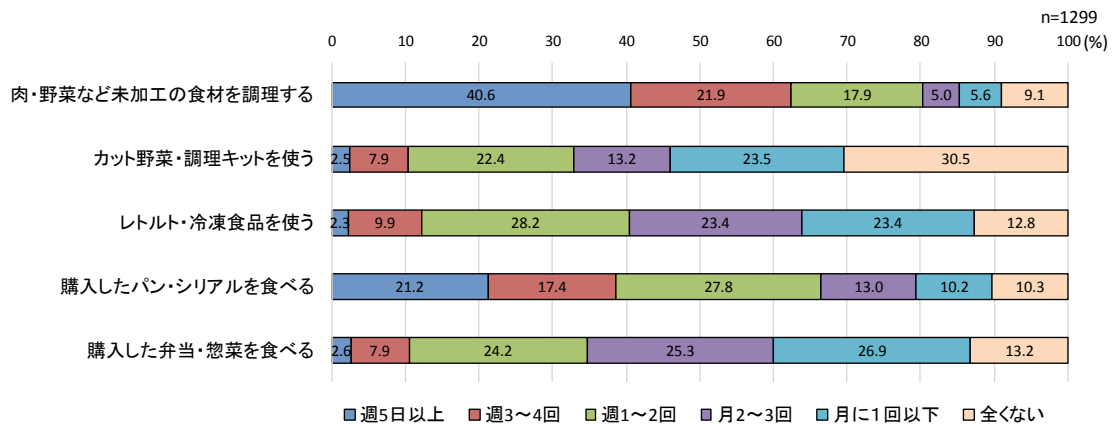


図 1-1 家で食事をする際の食材ごとの使用頻度（単一回答）

食材の使用頻度について、家族構成別の集計結果を確認すると、特に肉・野菜などの未加工の食材について、1人暮らしの非高齢者世帯では、週5日以上利用するとの回答が全体平均に比べて約20ポイント少なかった一方、2人暮らしの高齢者世帯では、全体平均に比べて20ポイント以上多かった。

表 1-1 【肉・野菜などの未加工の食材】食材ごとの使用頻度（家族構成別集計）

		週5日以上	週3~4回	週1~2回	月2~3回	月に1回以下	全くない
全体 (n=1299)	%	40.6	21.9	17.9	5.0	5.6	9.1
1人 非高齢者 (n=210)	%	20.0	16.7	31.9	8.1	12.9	10.5
1人 高齢者 (n=65)	%	46.2	18.5	21.5	1.5	3.1	9.2
2人 非高齢者 (n=330)	%	39.4	27.6	14.2	5.5	3.9	9.4
2人 高齢者 (n=100)	%	64.0	21.0	9.0	1.0	0.0	5.0
3人以上 未就学児含む (n=291)	%	47.8	21.6	14.8	4.1	5.2	6.5
3人以上 未就学児含まない (n=303)	%	40.3	20.5	17.2	5.3	5.3	11.6

(2) 食品を購入する場所

食品を購入する場所については、スーパーなどの店頭での買い物頻度が高いとの回答が多く、週1回以上利用している回答者が8割以上であった。次いでコンビニエンスストアの利用頻度が高いとの回答が多かった。一方、生協やネットスーパーの利用者は約3割であった。

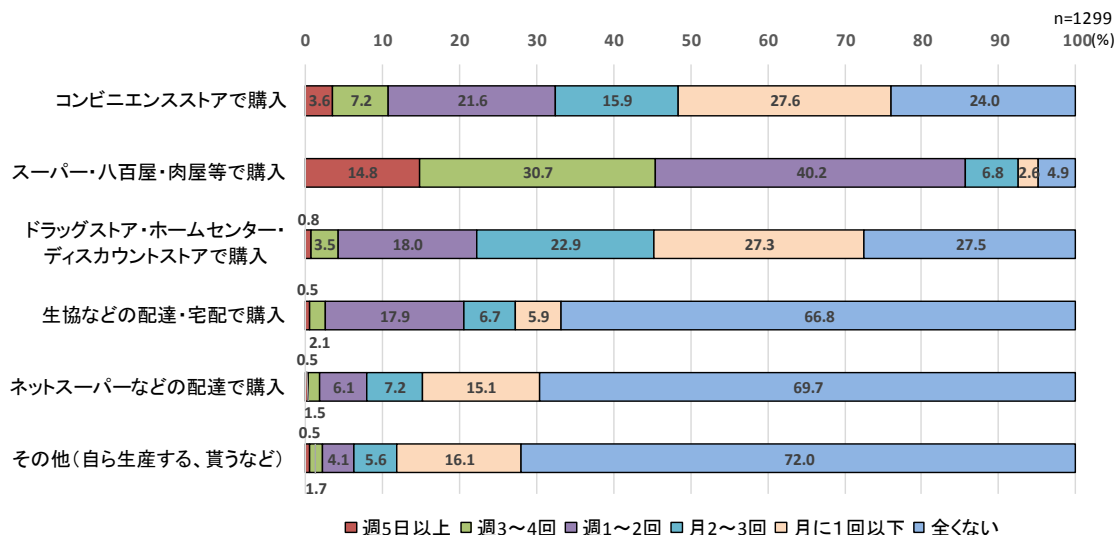


図 1-2 食品・食材の購入方法（単一回答）

食材を購入する場所について、家族構成別の集計結果を確認すると、特に生協などの配達・宅配の利用について、3人以上で未就学児を含む世帯で、週1~2回利用するとの回答が、全体平均よりも10ポイント以上多かった。また、1人暮らしの高齢者世帯で、利用が全くないとの回答が約85%で、全体平均を大きく上回った。

表 1-2 【生協などの配達・宅配】食品・食材の購入方法（家族構成別集計）

		週5日以上	週3~4回	週1~2回	月2~3回	月に1回以下	全くない
全体 (n=1299)	%	0.5	2.1	17.9	6.7	5.9	66.8
1人 非高齢者 (n=210)	%	1.4	1.0	9.5	6.2	3.3	78.6
1人 高齢者 (n=65)	%	0.0	0.0	10.8	1.5	3.1	84.6
2人 非高齢者 (n=330)	%	0.0	1.8	10.6	6.7	5.5	75.5
2人 高齢者 (n=100)	%	0.0	1.0	20.0	4.0	2.0	73.0
3人以上 未就学児含む (n=291)	%	1.0	2.7	28.9	7.9	8.6	50.9
3人以上 未就学児含まない (n=303)	%	0.3	3.3	22.1	7.9	7.6	58.7

(3) 食品の購入に関わる行動

食品の購入に関わる行動については、「買い物に行く前に家にある食品を確認する」との回答が 62%で最も多かった。次いで、「店で買い物をしながらその日の献立を考える」との回答が 42%であった。

また、「買い物時に、商品を奥の方から取るなどして、より期限が長いものを選択する」との回答が 41%と 3 番目に多かった。ここから、期限の短くなったものから廃棄される先入れ先出しルールが一般的な小売店にとって、消費者の行動により店舗での廃棄が発生しやすくなっている可能性があると考えられる。

まとめ売り、少量売りに関する項目では、「少量で足りる場合でもまとめ売りのほうが安ければそちらを選ぶ」との回答が、「割高でも少量販売を選ぶ」との回答より 8 ポイント高かった。

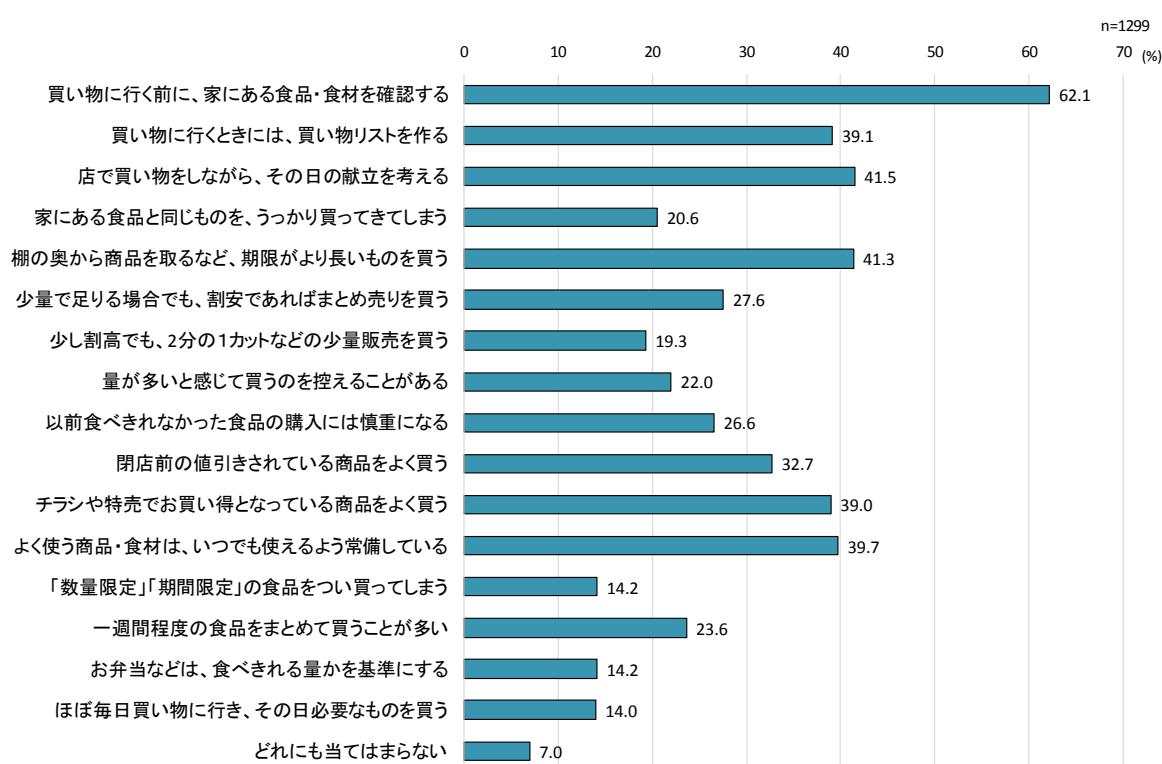


図 1-3 食品の購入に関わる行動（複数回答）

食品の購入に関わる行動について、家族構成別の集計結果を確認すると、1人、2人暮らしの高齢者世帯で、「棚の奥から商品を取るなど、期限がより長いものを買う」、との回答が全体平均より1割程度多かった。また、販売されている量が多いと感じて買うのを控えることがある、との回答は全体では22%だったのに対し、1人暮らしの高齢者世帯では46%であった。

食品の購入に関わる行動について、就業状況別の集計結果を確認すると、1人暮らしのフルタイム世帯では、「買い物リストを作る」との回答が全体平均の半数以下の割合であった一方、2人暮らしで無職同士の世帯（高齢者）では、全体平均に比べて高かった。

表 1-3 食品の購入に関わる行動（家族構成別集計）

		買い物に行く前に、家にある食品・食材を確認する	買い物に行くときには、買い物リストを作る	店で買物をしながら、その日の献立を考える	家にある食品と同じものを、うっかり買ってきってしまう	棚の奥から商品を取るなど、期限がより長いものを買う	少量で足りる場合でも、割安であればまとめ売りを買う	少し割高でも、2分の1カットなどの少量販売を買う	販売されている量が多いと感じて買うのを控えることがある	以前食べきれなかった食品の購入には慎重になる	閉店前の値引きされている商品をよく買う	チラシや特売でお買い得となっている商品をよく買う	よく使う商品・食材は、いつでも使えるように常備している	「数量限定」「期間限定」の食品をつい買ってしまふ	一週間程度の食品をまとめて買うことが多い	お弁当などは、食べきれない量を基準にする	ほぼ毎日買い物に行き、その日必要なものを買う	どれにも当てはまらない
全体 (n=1299)	%	62.1	39.1	41.5	20.6	41.3	27.6	19.3	22.0	26.6	32.7	39.0	39.7	14.2	23.6	14.2	14.0	7.0
1人 非高齢者 (n=210)	%	55.7	18.6	39.0	15.2	33.3	25.7	17.6	17.1	21.0	38.6	30.0	31.9	9.5	26.7	12.9	11.4	10.0
1人 高齢者 (n=65)	%	55.4	41.5	33.8	16.9	50.8	23.1	36.9	46.2	33.8	32.3	35.4	61.5	16.9	24.6	24.6	16.9	1.5
2人 非高齢者 (n=330)	%	63.6	42.1	43.0	17.3	42.1	26.7	24.5	27.3	27.0	32.1	35.5	37.9	14.5	23.0	14.8	14.2	7.9
2人 高齢者 (n=100)	%	61.0	54.0	46.0	22.0	52.0	27.0	22.0	26.0	31.0	26.0	55.0	61.0	13.0	29.0	22.0	18.0	4.0
3人以上 未就学児含む (n=291)	%	68.0	44.7	42.6	23.7	43.3	31.3	15.5	18.2	25.4	32.6	41.6	41.9	16.5	25.4	12.7	17.5	5.5
3人以上 未就学児含まない (n=303)	%	61.1	39.3	40.6	25.1	38.6	27.4	13.9	16.8	28.1	31.7	41.9	33.3	14.5	18.5	10.9	10.2	7.6

表 1-4 食品の購入に関わる行動（就業状況別集計）

		買い物に行く前に、家にある食品・食材を確認する	買い物に行くときには、買い物リストを作る	店で買物をしながら、その日の献立を考える	家にある食品と同じものを、うっかり買ってきってしまう	棚の奥から商品を取るなど、期限がより長いものを買う	少量で足りる場合でも、割安であればまとめ売りを買う	少し割高でも、2分の1カットなどの少量販売を買う	販売されている量が多いと感じて買うのを控えることがある	以前食べきれなかった食品の購入には慎重になる	閉店前の値引きされている商品をよく買う	チラシや特売でお買い得となっている商品をよく買う	よく使う商品・食材は、いつでも使えるように常備している	「数量限定」「期間限定」の食品をつい買ってしまふ	一週間程度の食品をまとめて買うことが多い	お弁当などは、食べきれない量を基準にする	ほぼ毎日買い物に行き、その日必要なものを買う	どれにも当てはまらない
全体 (n=1299)	%	62.1	39.1	41.5	20.6	41.3	27.6	19.3	22.0	26.6	32.7	39.0	39.7	14.2	23.6	14.2	14.0	7.0
1人 フルタイム (n=177)	%	54.8	16.4	37.3	13.6	31.6	23.7	16.9	18.1	20.3	37.9	27.7	30.5	10.2	26.0	11.9	10.7	9.6
1人 短時間勤務または無職 (n=98)	%	57.1	37.8	38.8	19.4	48.0	27.6	31.6	34.7	30.6	35.7	37.8	54.1	13.3	26.5	22.4	16.3	5.1
2人以上 フルタイム+フルタイム (n=311)	%	63.0	37.9	40.8	23.5	35.7	25.1	18.3	16.7	23.2	32.8	32.8	31.2	14.1	20.9	12.2	13.8	7.4
2人以上 フルタイム+短時間勤務 (n=300)	%	63.7	41.7	44.7	22.3	44.0	28.3	19.0	22.3	28.3	34.0	43.0	40.7	12.3	22.7	13.3	12.3	6.0
2人以上 フルタイム+無職 (n=313)	%	65.8	46.3	40.9	19.8	44.4	31.6	17.3	24.0	29.1	29.7	42.8	41.2	18.8	23.3	13.1	15.7	7.7
2人 無職+無職（高齢者世帯） (n=100)	%	61.0	54.0	46.0	22.0	52.0	27.0	22.0	26.0	31.0	26.0	55.0	61.0	13.0	29.0	22.0	18.0	4.0

2 家庭での食材管理

(1) 食材を購入してから消費しきるまでの期間

ハムやソーセージなどの加工肉類は一般的に製造から1~2か月程度の賞味期限となっているため、購入時には賞味期限日まで2週間から1か月程度余裕があると考えられるが、購入後1週間以内に消費しているとの回答が4割以上であった。

また、菓子類、清涼飲料は、一般的に製造から3~4か月程度の賞味期限設定となっているが、これらについても4割以上の回答者が購入後1週間以内に消費していることが分かった。また、1か月以内に消費しているとの回答は約8割であった。

一方、製造日から賞味期限日までの期間が一般的に半年以上となっているインスタント食品や乾物、冷凍食品、缶詰、調味料類は購入直後ではなく1~3か月以内との回答が多く、購入後、時間を経て消費されることが多いことが分かった。

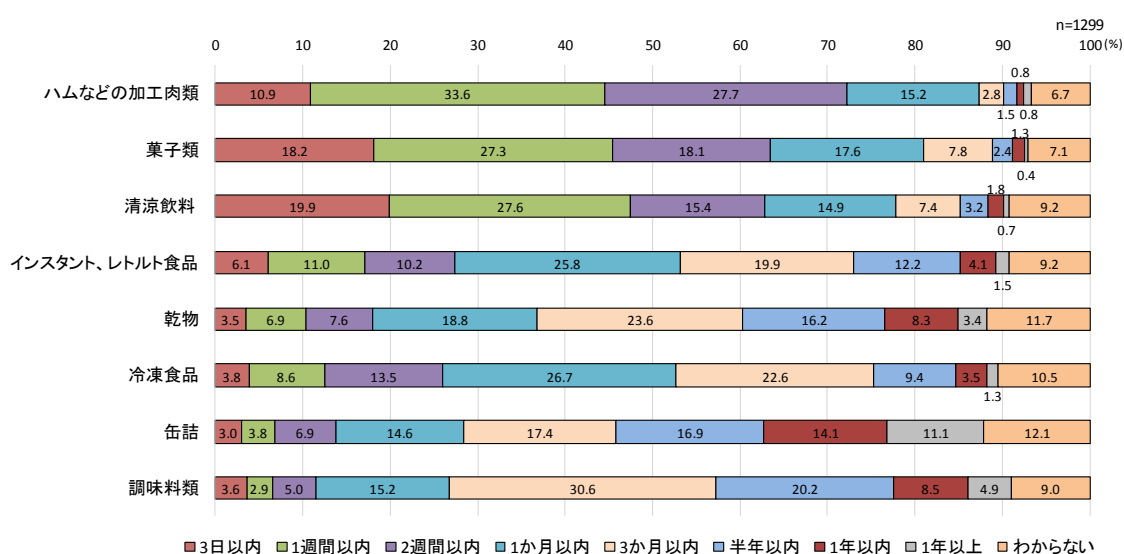


図 2-1 食材を購入してから消費しきるまでの期間 (単一回答)

食材を消費しきるまでの期間について、家族構成別の集計結果を確認すると、特に菓子類について、1人、2人暮らしの高齢者世帯で、3日以内に消費するとの回答が、全体平均より約12ポイント低かった。ただし、この属性に含まれる高齢者のうち90%以上が、購入後3か月以内には菓子類を消費すると回答している。ここから、高齢者は、菓子類を消費しきるまでの時間は長いものの、概ね賞味期限以内には消費していると考えられる。

表 2-1 【菓子類】食材を購入してから消費しきるまでの期間 (家族構成別集計)

	3日以内	1週間以内	2週間以内	1か月以内	3か月以内	半年以内	1年以内	1年以上	わからない
全体 (n=1299)	18.2	27.3	18.1	17.6	7.8	2.4	1.3	0.4	7.1
1人 非高齢者 (n=210)	26.2	20.5	16.7	16.2	5.2	2.9	1.4	0.0	11.0
1人 高齢者 (n=65)	6.2	33.8	24.6	16.9	10.8	0.0	1.5	1.5	4.6
2人 非高齢者 (n=330)	16.1	25.8	17.0	17.0	11.2	3.6	1.8	0.3	7.3
2人 高齢者 (n=100)	6.0	32.0	16.0	31.0	8.0	2.0	0.0	0.0	5.0
3人以上 未就学児含む (n=291)	18.2	30.6	18.2	17.2	6.2	1.0	1.0	0.3	7.2
3人以上 未就学児含まない (n=303)	21.5	27.4	19.5	15.2	6.6	2.6	1.3	0.7	5.3

(2) 家庭で実践している野菜の保存方法

家庭で実践している野菜の保存方法については、「ポリ袋に入れて冷蔵庫に入れる」が最も多く、約6割であった。「紙に包む」「保存の向きを工夫する」など野菜に合った保存方法を実践しているとの回答はいずれも3割以下であった。

自由回答では、20代女性で「真空チルド機能を利用する」、40代女性で「キャベツの芯などには小麦粉をつけてから冷蔵」との回答があった。

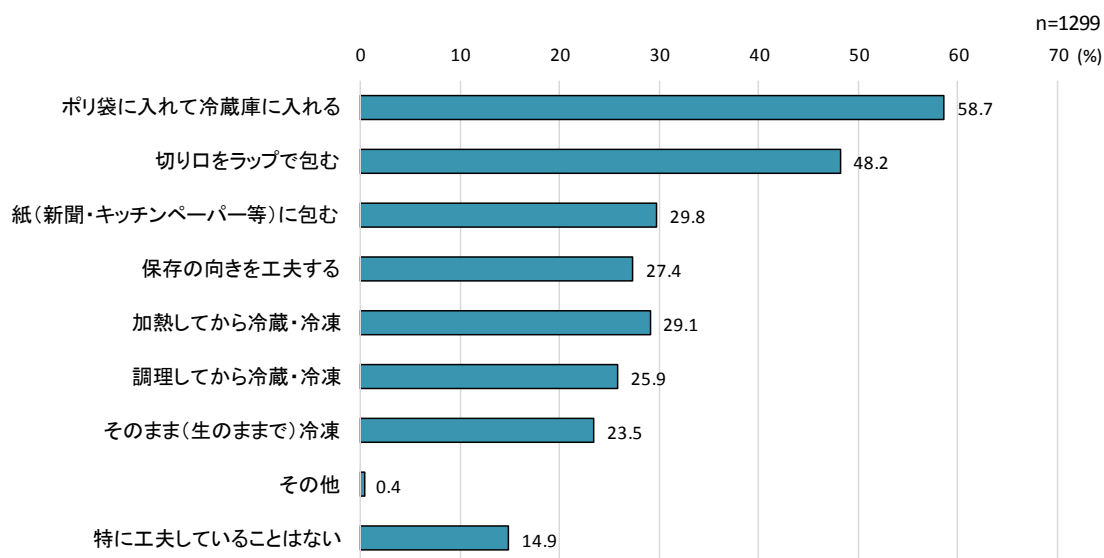


図 2-2 家庭で実践している野菜の保存方法（複数回答）

家庭で実践している野菜の保存方法について、家族構成別の集計結果を確認すると、1人、2人暮らしの高齢者世帯で、「特に工夫していることはない」、との回答が全体平均より約10ポイント少なかった。ここから、高齢者世帯では、野菜の保存に関して何かしらの工夫を実践している人が多いと考えられる。

表 2-2 家庭で実践している野菜の保存方法（家族構成別集計）

		ポリ袋に入れて冷蔵庫に入れる	切り口をラップで包む	紙(新聞・キッチンペーパー等)に包む	保存の向きを工夫する(へたを上にする等)	加熱してから冷蔵・冷凍	調理してから冷蔵・冷凍	そのまま(生のままで)冷凍	その他	特に工夫していることはない
全体 (n=1299)	%	58.7	48.2	29.8	27.4	29.1	25.9	23.5	0.4	14.9
1人 非高齢者 (n=210)	%	45.7	34.3	19.0	19.5	26.2	23.3	18.1	0.5	31.0
1人 高齢者 (n=65)	%	83.1	33.8	38.5	27.7	33.8	33.8	33.8	0.0	4.6
2人 非高齢者 (n=330)	%	62.4	51.2	33.6	33.3	27.0	25.5	26.1	1.2	13.0
2人 高齢者 (n=100)	%	86.0	51.0	53.0	41.0	41.0	33.0	26.0	0.0	5.0
3人以上 未就学児含む (n=291)	%	54.0	57.7	22.3	22.3	31.3	28.5	26.1	0.0	11.7
3人以上 未就学児含まない (n=303)	%	53.8	47.5	30.7	26.7	26.4	21.5	18.8	0.0	14.5

(3) 食品の整理頻度

冷蔵庫に入れている食品の整理頻度について、回答者の約5割が週1日以上の頻度で整理していることが分かった。冷凍庫や常温で保存している食品の整理頻度は、月に1回以下との回答が約3割で最も多かった。

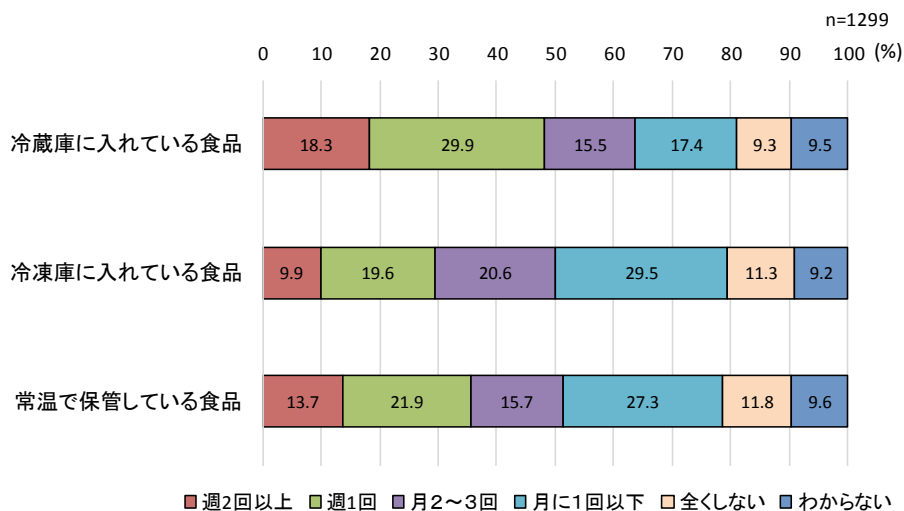


図 2-3 食品の整理頻度（単一回答）

食材の保存・整理方法に関する情報源について、インターネットで情報を得るとの回答が最も多く5割であった。次いで、テレビから情報を得ているとの回答が約3割であった。一方で、特に情報収集はしていないとの回答も約3割であった。

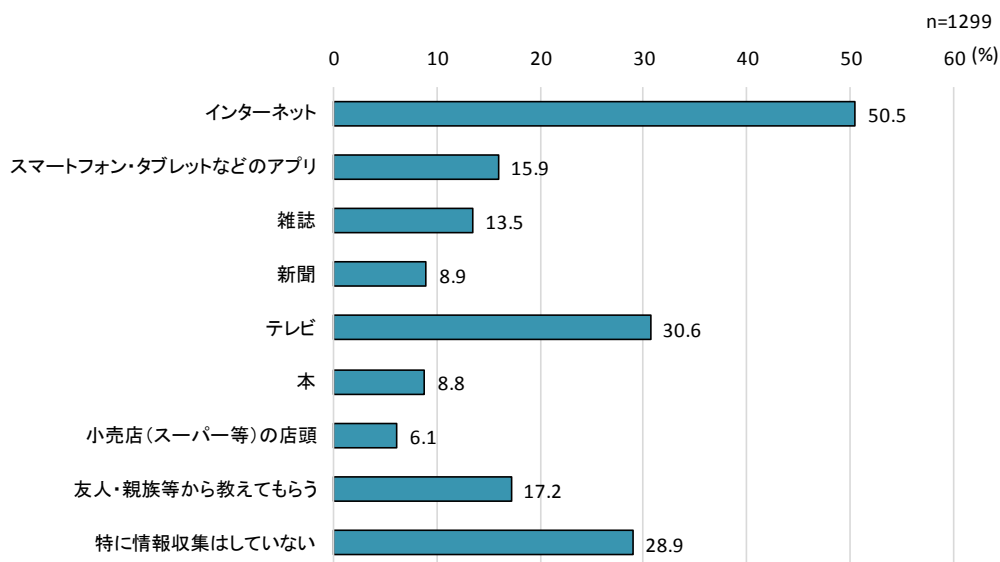


図 2-4 食材の保存・整理方法に関する情報源（複数回答）

食材の保存・整理方法に関する情報源について、世代別の集計結果を確認すると、20代、30代で、インターネット、スマートフォン・タブレットなどのアプリで情報を得るとの回答が、全体平均より特に多かった。一方、60代以上では、雑誌、新聞、テレビで情報を得

るとの回答が全体平均より特に多かった。これらの結果から、発信する情報の内容とターゲットを考慮し、情報発信媒体を選択する必要があると考えられる。

表 2-3 食材の保存・整理方法に関する情報源（世代別集計）

		インターネット	スマートフォン・タブレットなどのアプリ	雑誌	新聞	テレビ	本	小売店（スーパー等）の店頭	友人・親族等から教えてもらう	特に情報収集はしていない
全体 (n=1299)	%	50.5	15.9	13.5	8.9	30.6	8.8	6.1	17.2	28.9
20代 (n=85)	%	56.5	27.1	10.6	3.5	24.7	7.1	7.1	16.5	21.2
30代 (n=345)	%	61.2	23.8	11.6	1.2	31.0	10.7	3.8	18.3	22.3
40代 (n=430)	%	51.4	14.9	14.4	6.7	27.9	6.7	5.1	16.0	30.0
50代 (n=235)	%	42.1	11.1	12.3	11.5	28.9	8.9	7.7	15.3	37.0
60代以上 (n=204)	%	37.7	5.9	17.2	26.0	40.2	10.3	9.8	20.1	31.9

3 鮮度意識・廃棄の実態

食品の鮮度に対する考え方への質問については、賞味期限や消費期限が切れていてもあまり気にせず自分の感覚や経験に基づいて食べるかどうかを判断するとの回答が約 5 割と最も多かった。

(1) 食品の鮮度に対する意識

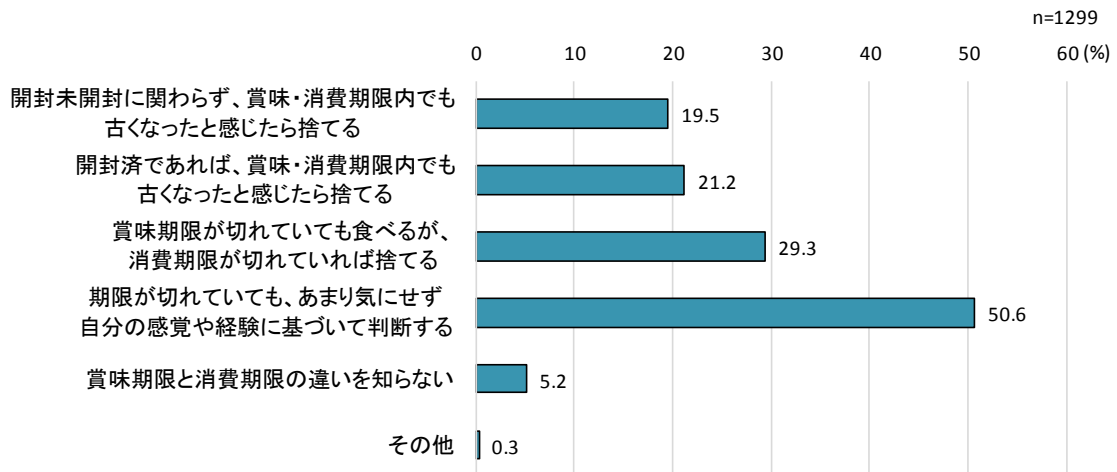


図 3-1 食品の鮮度に対する意識（複数回答）

食品の鮮度に対する考え方について、家族構成別の集計結果を確認すると、3人以上の未就学児を含む世帯で、「開封済であれば、賞味・消費期限内であっても古くなったと感じたら捨てる」「賞味期限が切れていても食べるが、消費期限が切れていれば捨てる」との回答割合が、全体平均より特に高かった。一方、同区分で「期限が切れていても、あまり気にせず自分の感覚や経験に基づいて判断する」とした人の割合は、全区分中最も低かった。ここから、未就学児を含む世帯では、より鮮度に対して敏感であると考えられる。

表 3-1 食品の鮮度に対する意識の関係（家族構成別集計）

		開封未開封に関わらず、賞味・消費期限内でも、古くなったと感じたら捨てる	開封済であれば、賞味・消費期限内であっても、古くなったと感じたら捨てる	賞味期限が切れていても食べるが、消費期限が切れていれば捨てる	期限が切れていても、あまり気にせず、自分の感覚や経験に基づいて判断する	賞味期限と消費期限の違いを知らない	その他
全体 (n=1299)	%	19.5	21.2	29.3	50.6	5.2	0.3
1人 非高齢者 (n=210)	%	20.0	17.1	20.5	52.9	11.4	1.0
1人 高齢者 (n=65)	%	18.5	16.9	27.7	55.4	1.5	1.5
2人 非高齢者 (n=330)	%	18.2	21.8	28.8	54.8	4.2	0.0
2人 高齢者 (n=100)	%	19.0	15.0	34.0	55.0	3.0	1.0
3人以上 未就学児含む (n=291)	%	21.0	28.2	34.4	43.3	5.2	0.0
3人以上 未就学児含まない (n=303)	%	19.5	19.5	30.0	48.8	3.3	0.0

(2) 未使用食品の廃棄

① 廃棄品目数

1週間以内で未使用のまま廃棄した食品の品目数については、廃棄はないとの回答が5割以上と最も多かった。次いで、週に1回との回答が多かった。

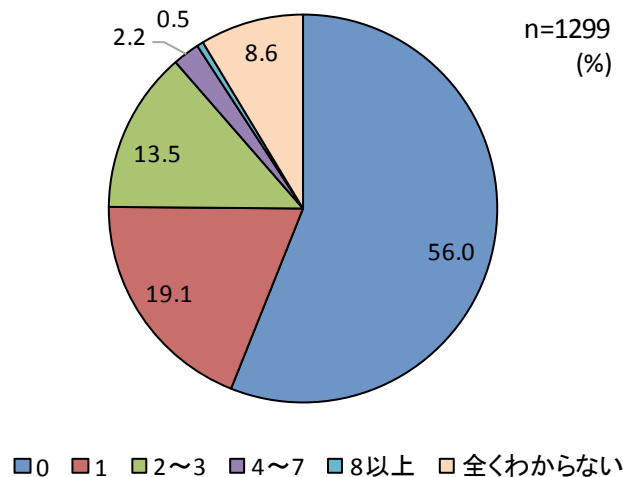


図 3-2 1週間以内に未使用のまま廃棄した食材の品目数（単一回答）

1週間以内で未使用のまま廃棄した食品について、家族構成別の集計結果を確認すると、1人、2人暮らしの高齢者世帯で、廃棄はないとの回答が全体平均に比べて約10ポイント多かった。また、同属性では、4品目以上廃棄したとの回答が全くなかった。

表 3-2 1週間以内に未使用のまま廃棄した食材の品目数（家族構成別集計）

		0	1	2~3	4~7	8以上	全くわからない
全体 (n=1299)	%	56.0	19.1	13.5	2.2	0.5	8.6
1人 非高齢者 (n=210)	%	61.9	12.4	11.4	4.3	1.0	9.0
1人 高齢者 (n=65)	%	66.2	18.5	7.7	0.0	0.0	7.7
2人 非高齢者 (n=330)	%	56.7	19.4	12.1	1.5	0.3	10.0
2人 高齢者 (n=100)	%	66.0	18.0	8.0	0.0	0.0	8.0
3人以上 未就学児含む (n=291)	%	50.2	22.0	16.2	2.4	0.3	8.9
3人以上 未就学児含まない (n=303)	%	51.5	21.1	16.8	2.6	1.0	6.9

② 廃棄理由

未使用のまま食品を廃棄した理由を確認したところ、「品質の劣化」が最も多く約6割であった。次いで、「消費期限切れ」「賞味期限切れ」を理由とした回答が多かった。

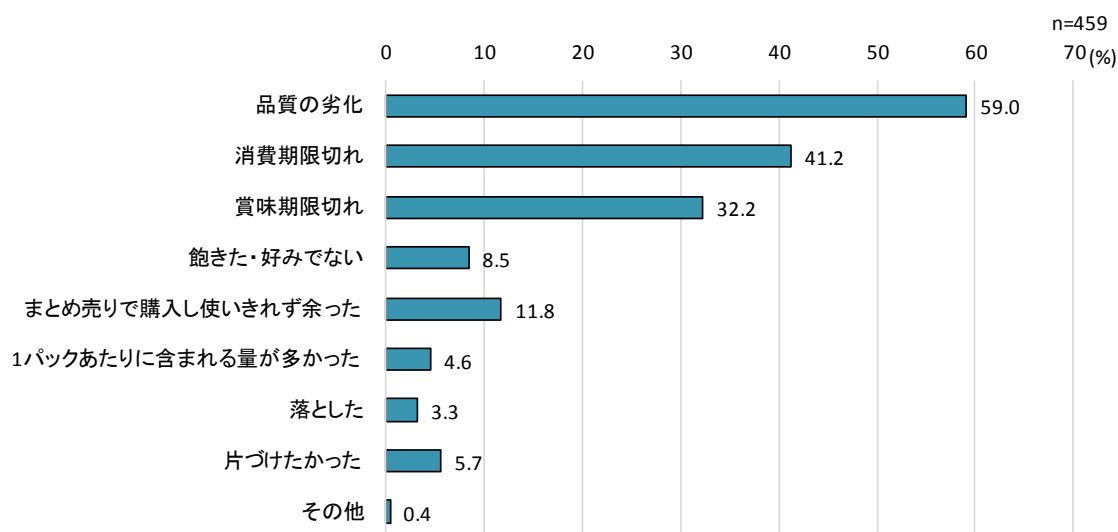


図 3-3 未使用のまま廃棄した理由（複数回答）

未使用のまま食品を廃棄した理由について、家族構成別の集計結果を確認すると、1人、2人暮らしの高齢者世帯で、「まとめ売りで購入し、余った」「1パックあたりの量が多かった」との回答割合が全体平均より特に高かった。

表 3-3 未使用のまま廃棄した理由の関係（家族構成別集計）

		品質の劣化	消費期限切れ	賞味期限切れ	飽きた・好みでない	まとめ売りで購入し、使い切れず余った	1パックあたりに含まれる量が多かった	落とした	片づけたかった	その他
全体 (n=459)	%	59.0	41.2	32.2	8.5	11.8	4.6	3.3	5.7	0.4
1人 非高齢者 (n=61)	%	60.7	47.5	36.1	19.7	16.4	6.6	6.6	6.6	1.6
1人 高齢者 (n=17)	%	88.2	23.5	23.5	11.8	23.5	17.6	5.9	11.8	0.0
2人 非高齢者 (n=110)	%	54.5	46.4	31.8	7.3	6.4	8.2	2.7	7.3	0.0
2人 高齢者 (n=26)	%	76.9	23.1	23.1	3.8	15.4	7.7	0.0	11.5	0.0
3人以上 未就学児含む (n=119)	%	63.0	38.7	36.1	5.0	9.2	0.8	4.2	4.2	0.0
3人以上 未就学児含まない (n=126)	%	50.8	42.1	30.2	7.9	14.3	1.6	1.6	3.2	0.8

(3) 家庭での食べ残し

① 食べ残しの頻度

家庭での食べ残しが発生した回数について、1週間以内での食べ残しはないとの回答が最も多く、5割以上であった。次いで、週に2～3回との回答が17%、週1回との回答が16%であった。

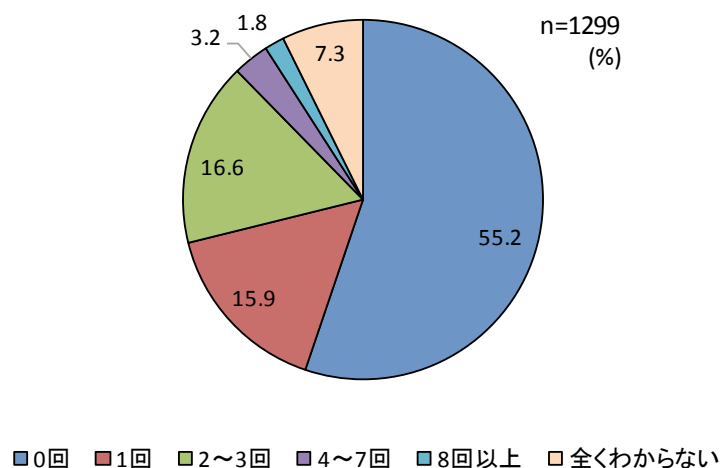


図 3-4 1週間以内に家庭内で食べ残しによる廃棄が発生した回数 (単一回答)

家庭での食べ残しが発生した回数について、家族構成別の集計結果を確認すると、1人、2人暮らしの高齢者世帯で、1週間以内での食べ残しはない(0回)との回答が全体平均より約10～20ポイント度多かったのに対し、3人以上で未就学児を含む世帯では、全体平均に比べて15ポイント以上少なかった。

表 3-4 1週間以内に家庭内で食べ残しによる廃棄が発生した回数 (家族構成別集計)

		0回	1回	2～3回	4～7回	8回以上	全くわからない
全体 (n=1299)	%	55.2	15.9	16.6	3.2	1.8	7.3
1人 非高齢者 (n=210)	%	69.5	9.5	10.5	2.4	0.5	7.6
1人 高齢者 (n=65)	%	76.9	12.3	9.2	0.0	0.0	1.5
2人 非高齢者 (n=330)	%	63.9	12.1	12.1	1.5	0.6	9.7
2人 高齢者 (n=100)	%	67.0	18.0	9.0	2.0	1.0	3.0
3人以上 未就学児含む (n=291)	%	39.2	16.2	25.8	5.8	5.2	7.9
3人以上 未就学児含まない (n=303)	%	42.6	24.4	20.8	4.3	1.3	6.6

② 食べ残し発生理由

食べ残しが発生した理由を確認したところ、「子どもの食べ残し」が約4割と最も多かった。次いで、「作りすぎた」が約3割であった。

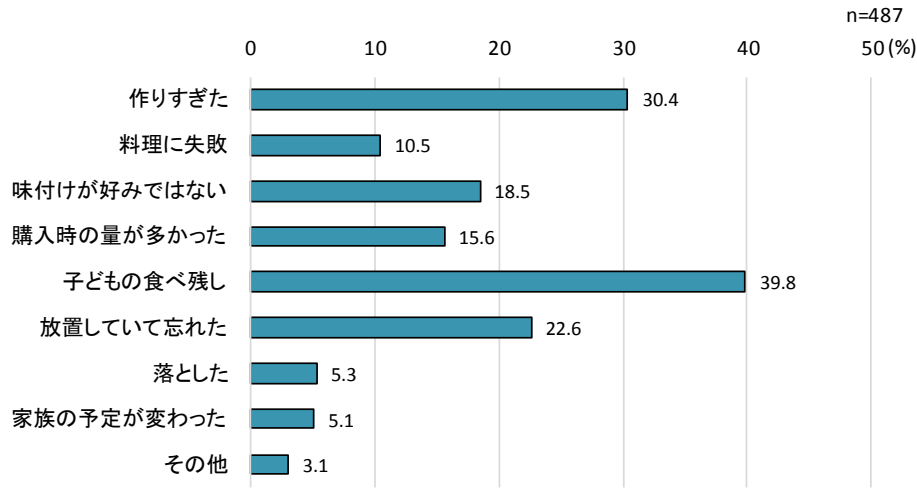


図 3-5 食べ残しが発生した理由（複数回答）

食べ残しが発生した理由について、家族構成別の集計結果を確認すると、3人以上で未就学児を含む世帯で、「子どもの食べ残し」との回答が約8割と特に多かった。また、「料理に失敗」「味付けが好みではない」との回答は1人世帯、2人世帯での非高齢者に多かった。一方、「放置して忘れて」との回答は1人世帯の高齢者に多かった。

表 3-5 食べ残しが発生した理由（家族構成別集計）

	作りすぎた	料理に失敗	味付けが好みではない	購入時の量が多かった	子どもの食べ残し	放置して忘れて	落とした	家族の予定が変わった	その他
全体 (n=487)	30.4	10.5	18.5	15.6	39.8	22.6	5.3	5.1	3.1
1人 非高齢者 (n=48)	35.4	22.9	31.3	31.3	6.3	22.9	8.3	4.2	2.1
1人 高齢者 (n=14)	42.9	7.1	7.1	21.4	0.0	64.3	7.1	0.0	0.0
2人 非高齢者 (n=87)	42.5	16.1	26.4	20.7	3.4	26.4	6.9	5.7	9.2
2人 高齢者 (n=30)	53.3	3.3	10.0	20.0	0.0	26.7	3.3	3.3	3.3
3人以上 未就学児含む (n=154)	16.9	7.1	14.3	9.1	76.6	14.9	5.8	3.9	1.3
3人以上 未就学児含まない (n=154)	29.9	8.4	16.9	13.0	45.5	23.4	3.2	7.1	1.9

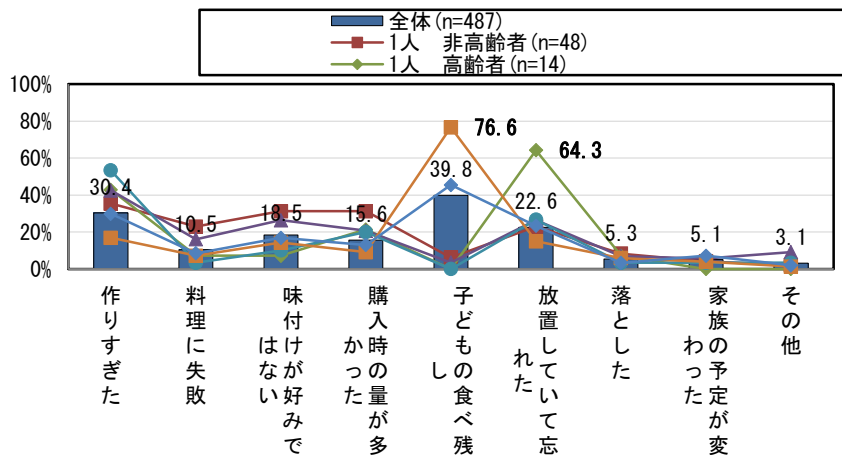


図 3-6 食べ残しが発生した理由（家族構成別集計）

4 外食での食べ残し

(1) 食べ残しの経験

外食時の食べ残しについては、食べ残しの経験はない、との回答が約3割と最も多かった。

食べ残しの理由としては、「注文時の想定より量が多かった」が最も多く約3割であった。次いで、「コース料理などでまとめて注文したため、量が選べなかった」との回答が多かった。

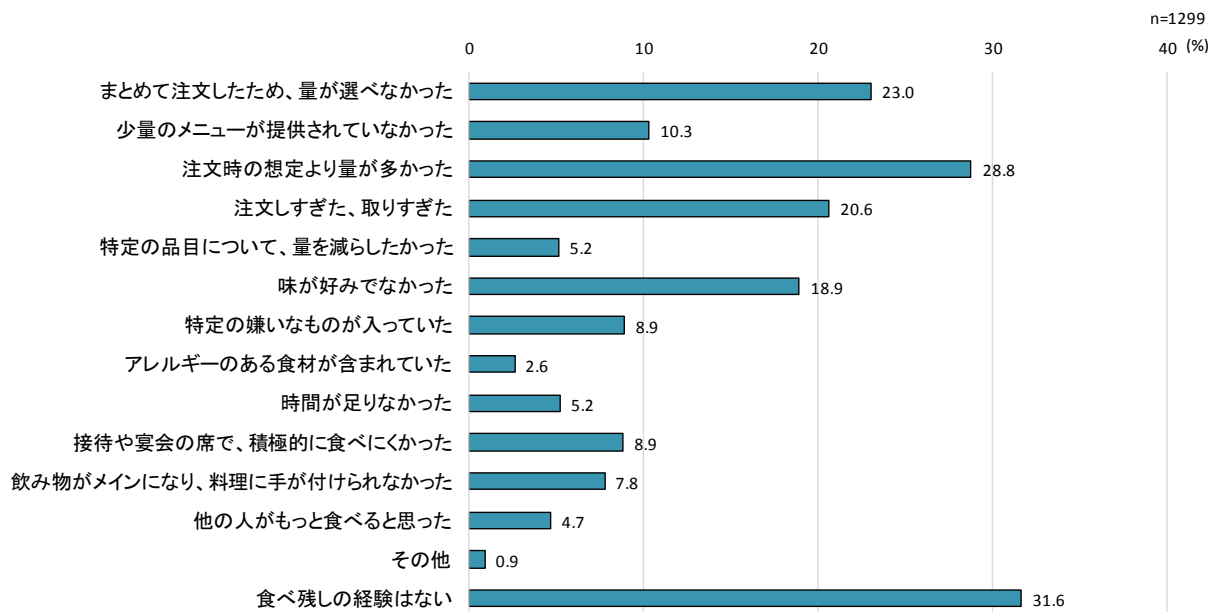


図 4-1 外食時の食べ残しの経験との有無とその理由（複数回答）

外食時の食べ残しについて、男女別の集計結果を確認すると、「少量のメニューが提供されていなかった」「注文時の想定より量が多かった」といった、提供される量の多さが原因での食べ残しの経験があるとの回答が、特に女性で多かった。また、食べ残しの経験はない、との回答が、男性で約4割であった一方、女性で24%であり、全体の傾向として、女性の方が、より外食時に食べ残してしまう割合が高いということがわかった。

表 4-1 外食時の食べ残し経験の関係（性別・世代別集計）

		コースなどでまとめて注文したため、量が選べなかった	少量のメニューが提供されていなかった	注文時の想定より量が多かった	注文しすぎた、取りすぎた	特定の品目について、量を減らしたかった	味が好みでなかった	特定の嫌いなものが入っていた	アレルギーのある食材が含まれていた	時間が足りなかった	接待や宴会の席で、積極的に食べにくかった	飲み物がメインになり、料理に手が付けられなかった	他の人がもっと食べると思った	その他	食べ残しの経験はない	
全体 (n=1299)	%	23.0	10.3	28.8	20.6	5.2	18.9	8.9	2.6	5.2	8.9	7.8	4.7	0.9	31.6	
性別	男性 (n=648)	%	18.4	7.6	21.6	18.5	4.9	16.2	9.0	3.4	4.3	6.6	8.8	3.4	1.1	39.7
	女性 (n=651)	%	27.6	13.1	35.9	22.7	5.4	21.7	8.9	1.8	6.1	11.1	6.8	6.0	0.8	23.7
世代	20代 (n=85)	%	25.9	12.9	35.3	22.4	10.6	15.3	7.1	8.2	12.9	10.6	9.4	7.1	0.0	28.2
	30代 (n=345)	%	23.2	10.4	31.0	23.2	6.4	19.7	9.9	2.6	6.7	10.4	4.9	6.1	0.9	25.5
	40代 (n=430)	%	27.4	9.5	27.7	21.6	4.4	17.4	6.7	1.2	5.1	9.5	7.9	4.7	1.2	30.2
	50代 (n=235)	%	20.4	8.5	28.9	17.9	4.7	20.9	11.5	3.0	2.1	8.5	9.8	3.8	0.0	37.0
	60代以上 (n=204)	%	15.2	12.7	24.5	16.7	2.9	20.1	9.8	2.9	3.4	4.4	9.3	2.5	2.0	40.2

外出時の食べ残しを持ち帰りについて、「できれば持ち帰りしたい」との回答が最も多く、約5割であった。次いで、「店側が持ち帰りを勧めてくるならば持ち帰りしたい」との回答が多かった。

自由回答では、持ち帰りやすいものならば持ち帰りしたいといった意見が多かった一方、持ち帰るための包装材などの廃棄を問題視する回答が1件見られた。

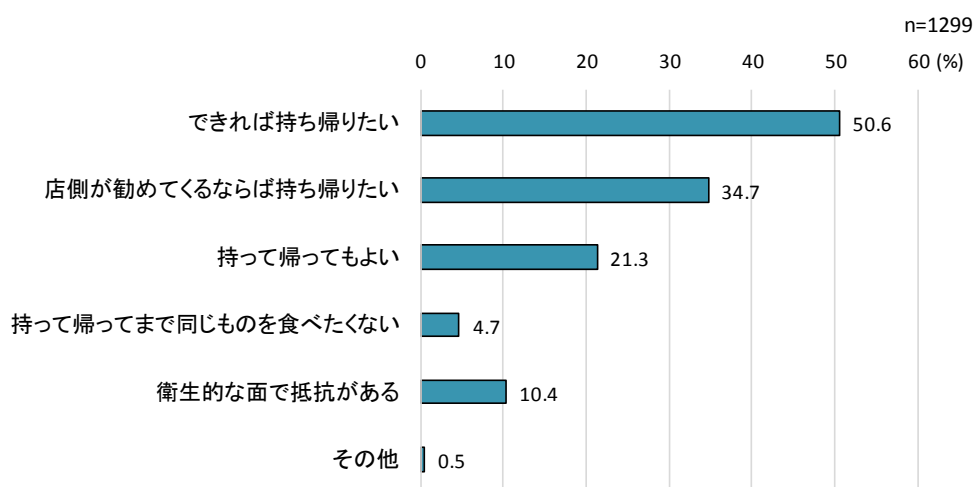


図 4-2 外出時の食べ残しの持ち帰りに対する考え方（複数回答）

外出時の食べ残しを持ち帰りについて、普段家庭で主に調理する人としらない人別の集計結果を確認すると、主に調理する人の方が、しらない人に比べて「できれば持ち帰りしたい」「店側が持ち帰りを勧めてくるならば持ち帰りしたい」と回答した割合が高かった。

表 4-2 外出時の食べ残しの持ち帰りに対する考え方（家庭での調理担当別集計）

		できれば持ち帰り たい	店側が持ち 帰りを 勧めてく るならば 持ち帰り たい	持って 帰っても よい	持って 帰ってま で同じも のを食べ たくない	衛生的な 面で抵抗 がある	その他
全体 (n=1299)	%	50.6	34.7	21.3	4.7	10.4	0.5
主に自分が調理する (n=877)	%	52.2	36.9	20.9	4.2	9.7	0.6
主に自分以外の家族が調理する (n=422)	%	47.2	30.1	22.3	5.7	11.8	0.2